

	これまでの検討されてきた事項	現状の運営方法	今後の検討の方向性（案）
実施日	週５回の開催を目指す ※現状に火曜日、木曜日を追加。 過去会議でのコメント 平日は毎日利用できる環境を作る。人材、予算の確保が必要。	南小、一小、寒小・・・月・水・金、週３回の開催 旭小、小谷小・・・月・水、週２回の開催	毎日利用できる環境の構築を目指すものの、指導員の高齢化等により新たな人材の確保が急務となっている。 引き続き人材の確保のための周知等を行うことや、指導員・ボランティアとのコミュニケーションを増やし、見守り人数の維持に努める。
実施時間	４月～９月…１５時３０分～１７時００分 １０月～３月…１５時３０分～１６時３０分 短縮授業や午前授業等の日に開始時間を早める。 いつ、どの程度早めるかは要検討。 過去会議でのコメント 開催時間を１８時まで拡大することは、児童の安全面や１７時以降の体育館の一般貸出状況を考慮すると難しい。	４月～９月…１５時３０分～１７時００分 １０月～３月…１５時３０分～１６時３０分	開催時間を１８時まで延長することは、児童の帰宅時の安全面を考慮すると実現は難しいものの、短縮授業や午前授業等の日に開催時間を早めることは、学校及び指導員等の調整如何により実施できる可能性があるため、関係団体との調整を進める。
実施場所	各小学校の体育館 過去会議でのコメント 当面は体育館でという意見あり、余裕教室活用の検討	各小学校の体育館	見守り人員の確保を優先するため、実施場所の拡充に関しては当面現状維持とする。
運営方法	直営、町が指導員及びボランティアへ謝礼を支払い運営	直営、町が指導員及びボランティアへ謝礼を支払い運営	当面の間、現状維持
事業内容	遊びの場を提供し、指導員・ボランティアが見守り 過去会議でのコメント 当面は遊び場の提供というシンプルなもので良いという意見あり	遊びの場を提供し、指導員・ボランティアが見守り	見守り人員の確保を優先するため、実施場所の拡充に関しては当面現状維持。
利用料	無し 過去会議でのコメント 全児童が対象のため有料化は馴染まないという意見あり。	無し	無し
見守り人数	３名 過去会議でのコメント 参加人数が増える場合は、増員の検討が必要。	３名	３名 参加人数が多く、指導員等の負担が大きくなる場合には、見守り人数の増員を検討する。
指導員	２０名（１校あたり４名）	１０名（１校あたり２名）	人材の確保が急務であることから、事業の周知や職員及び指導員等からの積極的な声掛けにより、見守り人数を増やすための取り組みを行う。
ボランティア	８０名（１校あたり１６名）	３５名（１校あたり５名から１１名）	
通所方法	行き…帰宅後ふれあい塾へ 帰り…児童のみで帰宅（保護者の迎えは必須ではない） 過去会議でのコメント 責任の所在を明確にするため、一度帰宅させる必要がある。 帰宅するまでは学校責任、帰宅後は家庭の責任。	行き…帰宅後ふれあい塾へ 帰り…児童のみで帰宅（保護者の迎えは必須ではない）	直接ふれあい塾を利用できるよう、責任の所在の明確化や学校側の負担を増やさない仕組みづくりを検討する。 学校、保護者、児童、指導員の状況を確認しつつルールを整備し、各学校と調整を図る。 実施内容の変更については、学校、指導員、役場の他、関係者とのコミュニケーションに加え、綿密な調整が必要であることから、今後事業の検討に向けて、継続的な検討ができる場づくりを検討していく。